

・世界展開力強化事業 長期留学 第3回報告書

ブラジル連邦共和国 サンパウロ大学(ESALQ-USP) 国際食料情報学部
食料環境経済学科 内海真登

・はじめに

本書では9月から11月までの留学中の活動について報告する。4月に始まった留学生活も折り返しを迎え言語や文化にも慣れ、より大学外の空き時間も有効に使い動けるようになったことが、これまで留学生活とは大きく異なる点である。これまで同様に農大関係者の方々、ESALQの友人や先生、日系社会といった、たくさんの人との繋がりを大切に、留学生活を送っていききたい。前回の報告書同様に3ヶ月間という長い期間の活動を報告するため、印象的だった活動内容をいくつかに分けて報告する。

・サンパウロでの農業イベントへの参加

9月上旬と中旬に農大会の大森さんのご紹介で、サンパウロ州の日系社会の農業イベントに参加した。参加にあたり移動や宿泊費等をCKC(日系企業)にサポートしてもらい、大学の授業のない週末に農業セミナーや農場での実践的な農業関連会社の取り組み、果樹の栽培等について研修することが出来た。9月上旬の農業セミナーは、ABJICA(ブラジルからJICAを通して日本で研修した人が運営している機関)主催で、ピラシカーバから300km程離れたプロミサオという街で行なわれた。ぼかしを使った液肥の研修や農村地域での農業経営、サンタカタリーナ州のりんご産地の農協の取り組みについての講義等がセミナーの内容である。中でもりんご産地の農協の取り組みはESALQの卒業生の方が経営しており、JAの様な集荷に加え、加工所の運営やマーケティングまでを担っている。このように日本のように大きく組織化されている農協と異なり、独立しユニークな取り組みやマーケティングの多いというブラジルの農協ならではの良さを学ぶことが出来て良かった。

Bunkyo RURALでは持続可能な農業をテーマに、様々な取り組みの発表と交流会、2日目に農業機械のデモンストレーションやワイナリー見学等が行なわれた。初日の発表者の中にはトメアスでお世話になった小長野さんや、小農家向けの農協とその農作物販売について等の発表があった。2日目にはRio Roqueという場所のワイナリーに行き、ぶどう生産・加工だけでなく観光農地としての取り組みを学ぶ事ができた。

2つのイベントで共通して良かった点は講義や発表だけでなく、ブラジル各地で活躍

する生産者や農業関係者と直接コンタクトをとれた事である。また後日このイベントで知り合った人の農場や改めて詳しく話を聞く事が出来た点が非常に良かった。このように大学外でも、主に日系農業社会を中心に自分にとって大切な繋がりができた。私の勉強している農業経済という分野は一般的に生産者から消費者に農作物が届くまでという広い分野を扱うため、自分の知識や経験の少ない部分を補っていくためにも、専門性のある生産者や農業関係者とのコンタクトは非常に大切であるとブラジルに来て改めて感じている。

ESALQ 内での活動

次に ESALQ 内での主な活動について報告する。今学期履修していた授業の中で特に印象的だった科目は『ブラジル農業政策論』である。現在のブラジルの農業に関わる政策だけでなく、どのようにブラジルの農業が成長していったかの歴史についても学ぶことができた。

また授業の後半には4人のグループに分かれ、それぞれ決められたテーマについて話し合い、発表する機会があった。語学力も含めてまだ他に学生同様のスピードや理解力で課題に取り組むことは難しかったが、同じグループの友人に協力してもらい、なんとか自分パートについて発表する事ができた。私達のグループはブラジルの生産団体や農協についてがテーマであり、私が担当したのは農協の概要と JA を例に比較したブラジル農協の特徴についてである。このように教授の話聞くだけでなく、ブラジルの学生と協力してコミュニケーションをとり、1つの課題に取り組むことができた点が非常に良い経験になった。

授業以外にも ESALQ-SHOW という大学内で行なわれる、ブラジルの様々な企業や生産者の集まるイベントに参加した。大学内での特別講義や農業関係の企業が各自の取り組みについて展示・説明しているブースがいくつかある。持続可能な農業への新しい取り組みなど、既に実践されているものもあり最新の情報を得ることができ良かった。改めて ESALQ の農業系の大学としての規模や外部の企業や生産者との繋がりの強さを実感した。そしてここで知り合った友人達や大学との繋がりが将来自分にとっても大切になると思う。

サンパウロ近郊の農場・日系企業訪問

10月から11月にかけて ESALQ の友人や9月の農業イベントで知り合った方を中心に、サンパウロ近郊の生産地や日系企業の訪問などを行なった。10月に ESALQ の休

日を利用して友人の実家のあるピラシカーバから 7 時間程離れたアラサツーバとい街へ行った。そこで馬と牛の農場について見せてもらい、その後弓場農場という日本人移住地へ向かった。友人の農場には牛 60 頭と馬が 5 頭程おり、2 日間程作業を一緒に行なった。作業内容は牧草の栄養価の問題で不足しているビタミンの馬への注射や、牛に出荷の際に必要な生産番号と農場のマークを牛に彫る作業を行なった。牛や馬を一頭ずつゲートに誘導し固定するのは根気にいる作業だが、個性の違う牛の状態を近くで見ることができ良かった。

弓場農場は村や集落単位を 1 つの家族と考える日系人の協同体である。この弓場農場には現在 50 人ほど暮らしており、一日 3 食を全員で食べる。ここで作られる食事の約 95% が自給自足である。現金収入もこの農場で生産された果物や野菜を中心に得ている。食事でなく、家具や家、生活必需品のほぼ全てを作り暮らしていて共同体の中ではブラジルでありながら今でも日本のみを使っていることもあり、本や映画などで知る昔の日本にタイムスリップした様な不思議な気持ちになった。それと同時にブラジルにしながら、自給自足や助け合いといった日本の農村社会の持つ素晴らしさを学んだ。

11 月サンパウロ近郊のアチバヤで栗農家をしている日本の方に生産と加工・販売についても研修させてもらった。青果で売るのではなく焼き栗をメインに販売しており、ブラジルで認知度の高くない焼き栗をしってもらう為、様々なイベントに出店し営業を行なっている。中でも大きな売り上げになっているのが日本の駐在員中心向けの通信販売である。焼き栗は誰もが食べるものではない為、定期的に買ってくれるお客さんを獲得する事が大事である。中間業者を通すと販売コストが高くなる為、配達サンパウロへ毎週末に自宅の車です。このようにブラジル、日本どちらの国においても、農作物に付加価値を付けてコストを低く消費者に届け利益を得るという考え方は変わらず、世界中のどの国でも必要な農業経済の考え方だと実際に学んだ。

農場だけでなくサンパウロに支社を持つ、日系企業への訪問や日本の社員の方に直接お話を伺う機会をもらえた事はこの留学に中でも私にとって非常に良かったである。中でも特に興味があった種苗会社への会社訪問と直接その社員の方に会い説明や研究農場を見学させてもらう貴重な機会であった。1 つの種に約 10 年をかけて開発し生産者に販売する仕事を間近で実感する事ができ、海外でも日本にいる時説明して頂いた内容がそのまま反映されていることを知り改めて将来こんな企業で働き駐在したいと強く思った。

republica の x morador のシュハスコ ブラジル人の家で過ごす週末 ubatuba

大学の友人の中でもヘプブリカの友人達は特別であり、一生の大切な人たちである。ここではそんな彼らとの思い出の一部を報告することで、ブラジルでの生活について知ってもらえればと思う。10 月にはヘプブリカの卒業生が集まって週末にペンションを貸し切り、シュハスコが開かれた。卒業生は遠くに住んでいる人も多く、全員が集まる機会はこの一年の一回のシュハスコだけだが、改めて ESALQ のヘプブリカごとの絆の強さや大切さを学んだ。この他にも週末は彼らと行動することが多く、友達の家泊めてもらいその家族と一緒に休日過ごす時間は、家族が日本にいる私にとっては非常に温かくて素晴らしい時間だった。学生同士で出かけることもあり、サッカー観戦や海岸など本当にここでは書ききれないたくさんの時間を共に出来き、楽しかった。休日だけでなく、日々の日常の中にも気づくとみんなで集まり話している時間があり、そうした何気ない時間がとても私にとってとても楽しく留学生生活を豊かにしてくれるものである。

最後に前回の報告書にも書いたがヘプブリカは 1 人ではなく共同生活なので時には窮屈な事もあるが、自分に合った場所を見つければそこでの時間は必ず大切に素晴らしいものになるはずである。これから留学を考えている学生にはそうした、ブラジルでの他の国にはないであろう、かけがえのない仲間との出会いがあるということも知ってもらいたい。